

# 第 2 章

## 生涯学習の島づくりへの アプローチ

佐渡市が目指す生涯学習の基本方針や目標、目指す方向

について述べています。



高校生生涯学習講座 模擬裁判

# 第1章 生涯学習の島のイメージ

## 学ぶ喜び うるおう人生 心トキめく佐渡島

生涯学習の島づくりは、佐渡市恒久の課題です。生涯学習は市民一人ひとりが、自分自身の向上を目指して、仕事や生活に役立てたり、生きがいや楽しみのために知識を深め、技術を身に付けたりすることです。その自発的な学びを通して、心身共に豊かな生活を享受することにより、喜びや期待などで心をトキめかす生涯学習の島づくりを目指します。また、佐渡のシンボルでもある「トキ」と共生できる自然環境を目指します。

### \* 生涯学習の島・・・5つのアプローチ

市民一人ひとりの多様な生き方を支援し、生きがいと活力に満ちた生涯学習の島を実現するために、次の5つの視点からアプローチを試みます。

豊かな情報で 生涯学び続ける  
市民の島

生涯学習情報を充実するとともに生涯各期の発達課題に応じた事業を展開し、「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の環境づくりを進めます。

互いに助け合い 活気にあふれる  
地域の島

今まで培ってきた協力体制を継承し、身近にある公民館を中心に特色ある事業の展開で、活気のある地域づくりを進めます。

自然を守り トキと共生する  
環境の島

トキ放鳥を実現する取組、エコアイランドを実現する取組に積極的にかかわり、美しい景観を保ち豊かな自然とともに生きる生活環境を目指します。

歴史を学び 後世に受け継ぐ  
伝統文化の島

佐渡に残されている有形無形の文化財を守り、金銀山の世界文化遺産登録実現を図るとともに、地域の伝統芸能を継承する活動に積極的に取り組み、歴史を大切にする島を目指します。

スポーツに親しみ  
心身共に活力を生む  
健康の島

楽しみながら進めることができるスポーツを奨励するとともに、心身両面の健康づくりを実現するために、生涯スポーツの環境づくりを進め、健康で長寿の島を目指します。

## 第2節 生涯学習ライフステージと主体別役割

### 1 生涯各期における発達課題

生涯学習は、人生において人格の完成を目指し継続する学習です。ハヴィガースト（米国）は、それぞれの年代においてその年齢相応の課題があり、それを達成しながら成長することにより、充実した幸福な生活につながると主張し、6つのライフステージに分けてそれぞれの時期に達成すべき発達課題があることを述べています。

生涯各期の発達課題を明らかにして学習に取り組むことが重要で、「生涯学習に関する市民の意識調査」など様々な要因を総合的にとらえて、生涯各期の区分を佐渡市独自に7つのライフステージを設定し、提示しました。

#### 乳幼児期（0～5才）

- 親子の信頼関係を高める。
- 基礎的な生活習慣を身に付ける。
- 友達とのかかわりの中で自主性、社会性、道徳性を身に付ける。

#### 少年期（6～15才）

- 基礎学力を身に付け、学習意欲を高める。
- 基本的な生活習慣を形成する。
- たくましい心身を育む。
- 友達とのかかわりの中で思いやりの心、協力心、我慢する心を育むこと。
- 郷土を愛し、お年寄りに畏敬の念をもつ。

#### 青年期（16～25才）

- 自己同一性（アイデンティティ）を確立する。
- 職業を選択し、就労のスタートを切る。
- 精神的にも社会的にも一人の人間として自立を目指す。
- 情報処理能力をつけ、視野を広げる。
- ボランティア活動を通し、社会に貢献しようとする意識をもつ。

\* 自己同一性（アイデンティティ）・・・他者とは違う本当の自分、自分らしさのこと。社会集団の中で認められるその人らしさのこと。

#### 盛年期（26～40才）

- 社会的に独立し、配偶者と協力して健全な家庭づくりをする。
- 子どもに愛情を注ぎ、責任をもって子育てに当たる。
- 地域活動、ボランティア活動に励み、地域づくりに貢献する。
- 技術革新と社会構造の変化に対応する学習を進める。
- 心身のバランスを保ち健康保持増進に努める。

## 壮年期（41～64才）

- 職業を通して、社会や家族に対する責任を負う。
- 生き方について子どもの見本となり、成人への道しるべとなる。
- 高齢期を見通して退職後の生活設計を立てる。
- 地域において責任ある地位につき、地域づくりの先頭に立つ。
- 気を若く保ち、心身の健康保持増進に努める。

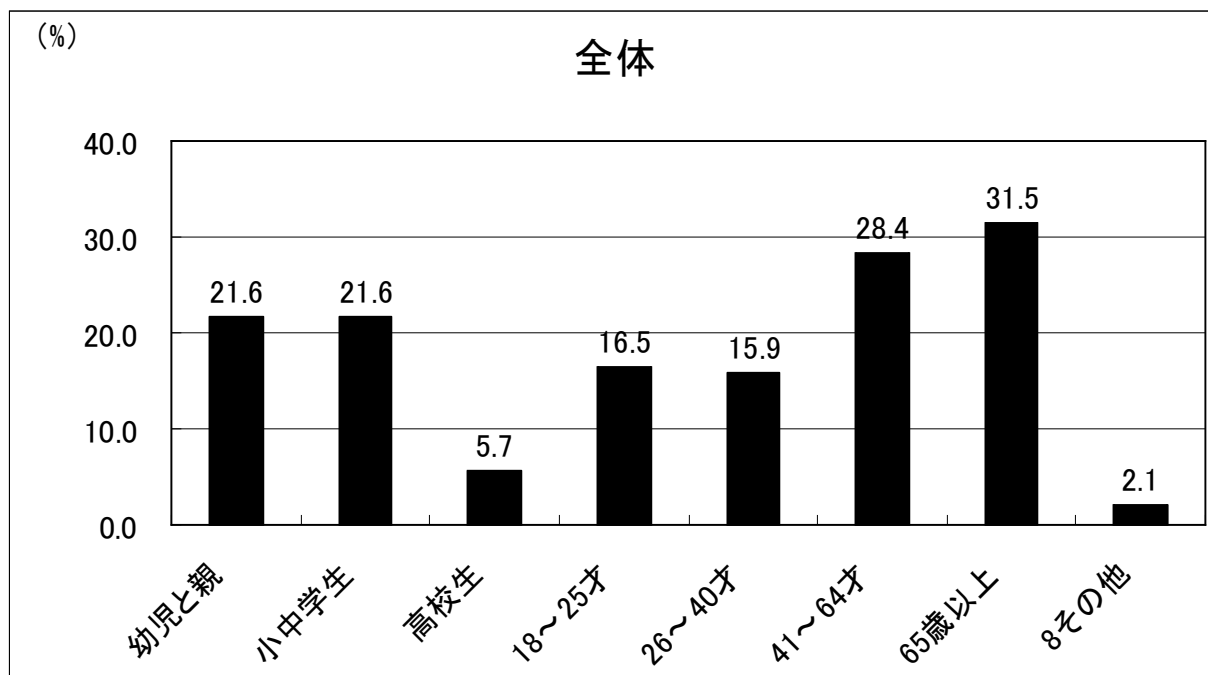
## 熟年期（65～75才）

- 自己の経験や能力、知識、技術を発揮するとともに継承する活動に励む。
- 趣味や教養を高める活動を続け、仲間づくりをする。
- 地域社会において必要な提言をするとともに後継者づくりに励む。
- 衰え始める心と体に備え、心身の健康保持増進に努める。

## 老年期（76才～）

- 自己の経験や能力、知識、技術を継承する活動に励む。
- 趣味や教養を高める活動を続け、仲間づくりをする。
- 地域社会において後継者づくりに励む。
- 衰え始める心と体に備え、心身の健康保持増進に努める。

「どの年代の事業を充実した方がよいか」



(平成17年度 生涯学習に関する市民の意識調査)

市民の要望が高い年代の事業の充実を図るとともに、各年代の発達課題に適応した事業をどのように推進するかが課題となっています。

## 2 生涯学習推進の主体別役割

生きがいと活力に満ちた生涯学習社会を築いていくためには、生涯学習推進の学習活動にかかわる様々な主体がその役割を果たし、互いに連携・協力を図る必要があります。

### (1) 家庭の役割

家庭は生涯学習の原点で、人間形成が行われる最初の教育の場です。子どもの人間形成や社会生活に必要な基本的な生活習慣を育成する重要な役割を担っています。

子どもは、両親や家庭の姿を見て、学びながら大人になります。どのような子どもに育てているか、家庭は社会に対して責任を持たなければなりません。節度を重んじ、他に迷惑をかけないやさしい子どもを育ててほしいものです。

このことは、家庭を初め、学校や地域社会が手を携えて子どもたちの健全育成に努めることにより得られるものと考えられます。

したがって、子どもが健全に育つよう家庭の教育力を高める学習機会と場の拡大が必要です。そのためには、家庭の教育機能を支援し、基本的な生活習慣の確立と望ましい人間関係の形成に努めていきます。

#### 家庭の目指す方向

- 適切なしつけによって、基本的な生活習慣を確立する。
- 家庭内での望ましい人間関係を形成する。
- 郷土の自然や文化に接するとともに、地域文化を大切にする。

## (2) 学校の役割

学校は、生涯学習の基盤としての基礎学力を徹底し、自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力を教育する場です。社会の変化に主体的に対応する能力、すなわち意欲、態度、思考力、判断力、表現力の育成、つまり自己教育力や生きる力の育成が求められ、生涯学習の基礎を培う重要な役割をもっています。

平成18年1月、「佐渡市学校教育基本構想」を策定し、佐渡市の目指す学校教育の基本的な考え方と推進の方向が示されました。構想では、島の豊かな自然、薫り高い文化に満ちたよさを生かし、子どもが自信と意欲をもって学び、夢と力をはぐくむ魅力ある学校の実現を目指しています。そのためには、情熱と使命感をもった教師の育成はもちろんのこと、学校の環境整備と教師の創造性を支援する教育行政の推進により、保護者や地域の理解と協力に支えられた信頼される学校づくりに取り組むことを目指しています。



昼休みシアター 学校訪問

### 学校の目指す方向

- 意欲をもち、確かな学力を付ける教育を推進する。
- 郷土を愛し、夢と誇りをもつ教育を推進する。
- 生きがいを見付け、自立を目指す教育を推進する。

(佐渡市学校教育基本構想)

### (3) 地域社会の役割

地域社会では、長い歴史の中で地域のもつ固有の文化、生活特性、風習等が継承され、人々の生活や営みの中で培われてきました。

しかしながら、近年、人々の価値観の多様化、人間関係の希薄化による地域の連帯意識の低下が感じられ、地域の伝統文化や行事、そして世代間交流も沈滞しがちとなっています。

また、子どもたちにとっても少子化により、触れ合いも少なく、自然体験や社会体験の機会が減少し、地域の教育力が低下しています。地域の中で見て見ぬふりをするのではなく、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成に努める必要があります。

変化の激しい社会の中で、地域に密着した学習や課題に取り組み、地域を支えてきた生活や文化、伝統を継承していくことを通して、地域を活性化し、特色ある地域づくりを進めていくことが求められます。だれでも、どこでも参加できる地域の学び・遊びの輪を広げなければなりません。

そのためには、地域活動を支える人材と組織の整備を図り、地域住民の参画を呼びかける取組が必要です。地域連帯意識を高め、活力と潤いに満ちた地域づくりに努めていきます。

#### 地域社会の目指す方向

- 地域における育成集団の形成に努め、連携して地域活性化に向けて取り組む。
- 地域の指導者、リーダー、後継者の育成を図る。
- 地域住民の連帯意識・自治意識を高め、活力ある地域づくりに努める。
- 少子高齢化に対応するため、世代間交流を図る事業を推進する。

#### (4) 学校・家庭・地域社会の連携

少子・高齢化が急速に進展している今日、学校・家庭・地域への影響は大きく、それぞれのもつ環境や機能が大きく変化しようとしています。

これからの社会では、学校・地域・家庭それぞれの機能・役割・責任を明確にして互いに連携して進めていくことが求められています。家庭は地域を構成する主体であり、学校は地域の中心的役割を果たす場として相互に情報を共有し、連携して地域の活動を推進することによって地域社会が形成されます。相互の人的・物的資源を活用することにより学習効果をあげ、学校・家庭・地域が一体となって地域の教育力を高めていく必要があります。

学社連携は、学校教育と社会教育がそれぞれの教育の独自性を十分に発揮するとともに、相互補完によって教育効果をより高めていこうとするものです。

佐渡市の各小中学校では、「総合的な学習の時間」を中心に学社連携で地域の伝統芸能や歴史を題材にした学習が進められています。

今後とも学校・家庭・地域社会が一層の連携を進め、住みよい豊かな地域づくりに努めるとともに、将来佐渡市の担い手となる青少年の健全育成に努めなければなりません。

#### 学校・家庭・地域社会の連携

- 相互の関連事業に積極的に参加し、人間関係の醸成を図る。
- 課題と情報の共有により活動連携の推進を図る。
- それぞれの機関の連携・協力により地域の教育力を向上させる。



## (5) 関係機関、各種団体、行政の役割

市民の生涯学習に対する関心の高まりとともに、学習要求も多種多様化・高度化し、多彩な学習機会や場の提供が求められるようになりました。生涯学習を推進する立場にある関係機関、各種団体、行政は、佐渡の生涯学習に関する現状を把握・整理し、住民の学習意識を高めたり学習システムを開発したりするなど、学習環境を再構築していく必要があります。

合併により生涯学習にかかわる環境や状況が変化する中で、住民主体の地域づくりのために、これまでの対応を見直し、地域の現状を踏まえた改善が求められます。

今後は、多様化する地域住民の学習ニーズに応える学習機会の提供や活動づくり、生涯学習関連施設の整備に努めていきます。



絵本の読み聞かせ

### 関係機関、各種団体、行政の目指す方向

- 地域間の交流拡大を通じて広域的な学習機会の提供に努める。
- 関係機関、各種団体、行政との連携を密にし、学習環境の整備と活動の活性化に努める。
- 自発的な学習活動を活性化し、社会生活の中で活用される環境の整備促進を図る。

